

1 プロジェクトの内容と目的

- 本路線は、横須賀市の久里浜港を起点とし、同市田浦地区の国道16号に至る、延長約12.7kmの幹線道路であり、佐原交差点から横浜横須賀道路横須賀ICまでの区間が、「第1次緊急輸送道路」に指定されている。
- 本路線と並行する衣笠通り(旧県道27号)は、慢性的な渋滞が発生していることから、JR衣笠駅周辺の交通を分散させ、道路網全体の機能強化につながる交流幹線道路網の整備が必要であった。
- 横須賀三浦地域には、地域産業を支える研究開発拠点や観光施設が点在しており、横浜横須賀道路へのアクセス強化や地域間の交流・連携の促進に寄与するネットワークの整備が必要であった。

神奈川県域図



横須賀市域図



事業地周辺図



起点側から撮影



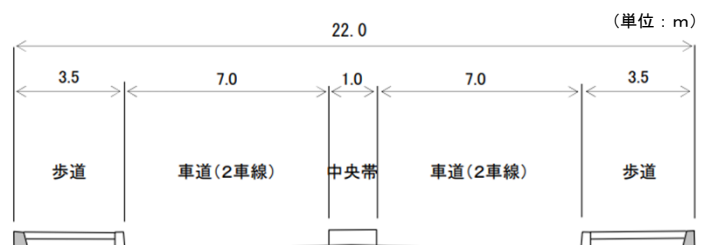
終点側から撮影



プロジェクトの内容

- 計画交通量: 27,100台/日(R12年推計)
- 道路規格: 第4種第1級
- 設計速度: 60km/h
- 幅員: 22.0m(4車線、両側歩道)
- 主な工種: 道路改良工

標準横断面図



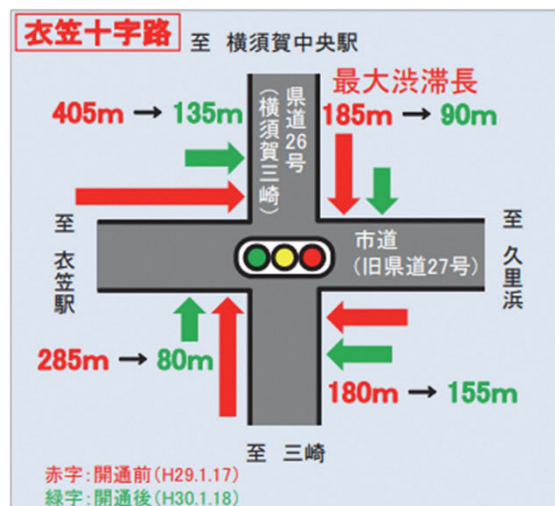
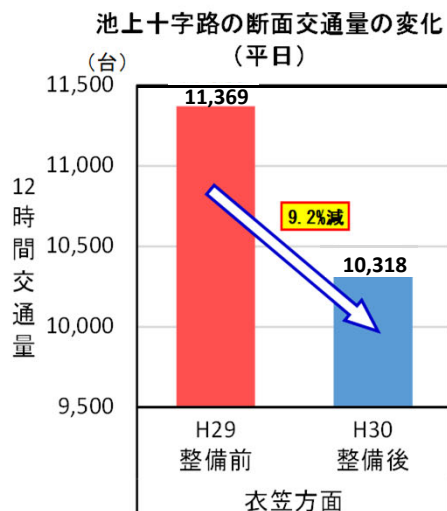
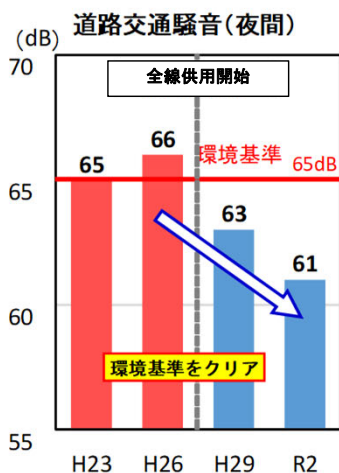
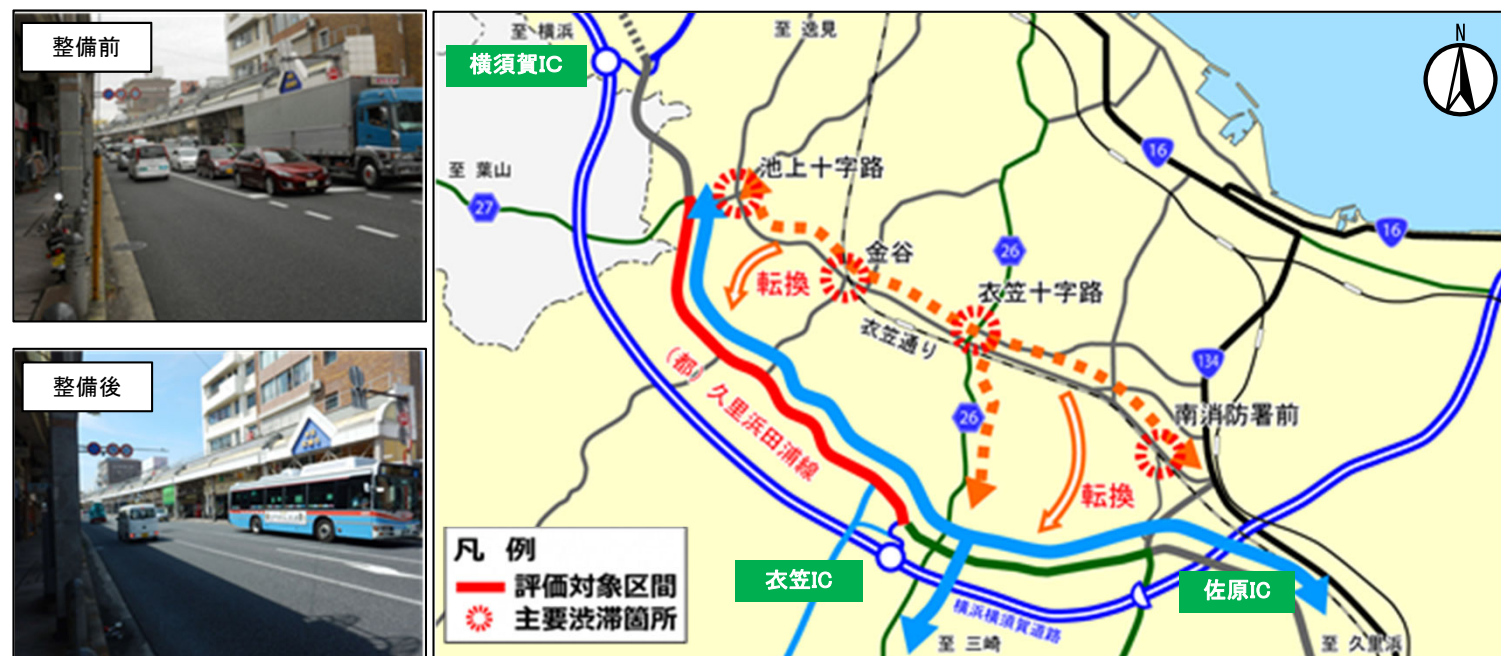
2 プロジェクトの効果

総合的な効果

- 「第1次緊急輸送道路」に指定されている評価対象区間が整備されたことにより、緊急物資受入れ港である久里浜港からのアクセスが強化され、災害時等における支援物資等の輸送力の強化が図られた。
- 本路線と並行する衣笠通りの交通量が評価対象区間に転換したことで、JR衣笠駅周辺の交通混雑が緩和され、安全かつ円滑な交通が確保された。
- 衣笠通りでは、夜間における道路交通騒音が環境基準を超過していたが、交通の転換により環境基準を満足し、道路交通振動も低減したことで、生活環境の改善に寄与した。

効果の発現状況

- 衣笠十字路における最大渋滞長が全ての方向で減少、池上十字路の衣笠方面の断面交通量が9.2%減少する等、安全かつ円滑な交通が確保された。
- JR衣笠駅周辺の混雑が改善され、衣笠通り等を運行する路線バスの定時性が確保された。



関係する地方公共団体等の意見

- 横須賀しょうぶ園 : 自動車専用道路からのアクセス性が大幅に改善し、遠方からの来場者も増えた。
京急バス衣笠営業所 : 「衣笠十字路」や「池上十字路」の混雑緩和が図られ、バスの定時性が確保された。

プロジェクトの投資効果の分析

- 本プロジェクトの建設費や維持管理等の費用(C(Cost))に対する投資効果としては、渋滞解消による①走行時間短縮効果、②走行経費減少効果、③交通事故減少効果を地域が受益している便益(B (Benefit))であると想定されるため、この費用便益比(B/C)の関係を投資効果として分析した。
この結果、本プロジェクトのB/Cは1.1となった。
- プロジェクトの投資効果の分析

$$\begin{aligned} \text{費用便益比(B/C)} &= \frac{\text{供用後50年間の時間短縮・走行経費減少・事故減少便益}}{\text{建設費} + \text{供用後50年間の維持管理費}} \\ &= \frac{919.3\text{億円}}{773.8\text{億円}} = 1.1 \end{aligned}$$

$$\text{経済的内部収益率(EIRR)} = 4.5\%$$

※ 建設～耐用期間の総費用、総便益については、物価の変動や利率などによる社会的な貨幣価値の年変動を、社会的割引率4%として考慮(現在価値化)し、算定している。

3 プロジェクト実施にあたっての特記事項

- 本事業区間には、絶滅危惧種のトウキョウサンショウウオが生息していたため、自然保護団体と保護方法について協議し、生息域の把握や個体数の調査を行い、主要生息地と同等環境を有する場所への個体移動作業を平成21年から3年間実施した後、工事に着手した。
- 工事中においても、トウキョウサンショウウオの成体1個体が確認されたため、自然保護団体と協議し、個体移動作業を実施した。
- 平成27年度に個体移動作業を実施した箇所においてモニタリングを実施したところ、成体及び卵のうが確認された。



4 プロジェクトによって得られたレッスン

- 本事業区間には、絶滅危惧種のトウキョウサンショウウオが生息していたため、生息域把握の調査範囲や、移動先及び移動時期の選定などについて自然保護団体と密に協議し、平成21年から3年間(費用:約5百万円)個体移動作業を実施した後、工事に着手した。個体移動作業を実施した箇所において平成27年度にモニタリングを実施したところ、成体及び卵のうが確認された。加えて、本事業評価にあたりモニタリング(令和4年3月)した際も、生息していることが確認できたため、適切な保全が図られていると判断できたことから、今後の類似事業のレッスンになったと考える。

5 考察

- 本事業は、汚染土砂の対策で想定より事業費が増額となったが、JR衣笠駅周辺の渋滞の緩和や幹線道路として地域の活性化の目的を達成することができた。